

# 都市再生整備計画(第6回変更)

とおかまち地区

にいがたけん とおかまちし  
新潟県 十日町市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	新潟県	市町村名	十日町市	地区名	とおかまち地区	面積	493 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標

- 【テーマ】 だれもが安心して活動できるにぎわいあふれる都市ゾーン
- ①安心・快適、暮らし続けたいまちづくり ~安心して暮らせる住環境整備~ ~市民と一体になり快適な生活空間の創出~
  - ②人を惹きつけ活気にあふれるまちづくり ~市民生活の中心としての活気づくり~ ~地域の経済循環の拡大~
  - ③世代間・地域間の交流によるふれあい満ちたまちづくり ~地域社会の活性化~
  - ④地域に誇りと愛着をもつ創造性豊かな人づくり ~スポーツ・文化活動の充実~

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

<経緯および現況>

本地区は古くからの商業・地場産業の中心を担ってきた地域であり、すべての商店街振興組合および協同組合が存在し、200店舗弱の小売商業が集積され、多くの都市機能(居住・商業・業務・緑地等)が含まれている。しかし、車での生活様式の変化、冬期間の屋根雪処理の苦慮などから、郊外への転居が進み空洞化が生じるとともに、核家族化にも拍車がかかり、中心市街地内の少子高齢化が進んでいる状況である。さらに、郊外型の商業施設の進出や公共公益施設の移転などにより、空き地・空き店舗が増加しており、現状のままではさらに増加が懸念され、現に都市活動・経済活動・賑わいが低下しつつある。

参考データ

○中心市街地内の人口推移	昭和45年 9,683人	平成12年 5,725人	(3,958人の減)	
○中心市街地商店街での買物利用割合	昭和61年 65%	平成10年 39.5%	(25.5%の減)	※郊外大規模小売店舗付近30%
○中心市街地商店街空き店舗数	平成16年10月 23軒	(中心市街地商店街店舗数の10%)		
○中心市街地内の高齢化率	昭和45年 7.3%	平成 7年 21.1%		

このような状況の中、街の賑わいを取戻そうと官民上げて下記のような取組みが行われている。

【十日町TMO】

平成12年度に策定された「十日町市中心市街地活性化基本計画」に基づき、商工会議所が母体となった「十日町市TMO」が発足した。中心市街地の商業等の活性化には、賑わいの創出や高齢化に対応した快適に暮らせる住環境が必要と考え、10年間を目標にハード・ソフト事業の展開を行っている。平成15年度に行われた第2回大地の芸術祭では、TMOが中心となり各商店街が連携し、中心市街地内に作品を設置し、各種イベントを行い誘客を図るなど今までにない展開が行われている。

【大地の芸術祭】

近隣の6市町村からなる十日町地域広域圏においては、「越後妻有アートネットワーク整備構想」が展開中であり、アートを媒介として人間と地域の自然や様々な場所との関係を見つめなおし、その魅力を高めて世界に発信しようと、2000年に第1回目の「大地の芸術祭」が開催された。失われつつある日本の風土を生かしたことや、アートを切り口にして地域の活性化を引き出したことなどにより、「第5回ふるさとイベント大賞」「第16回東京クリエイション大賞」を授賞する。

2003年には各6市町村のステージを中心に第2回目が開催され、十日町市では地区内に建設中の「十日町ステージ」がメイン会場となり、全国はもとより世界各国からの来訪者との交流活動も生まれた。特に今回は中心市街地内に作品の展示を行うことにより、住民と来訪者・作家との交流が生まれ、地域内での経済活動や住民活動の活性化の起爆剤になるとともに、十日町地域を全国・世界にアピールする機会となっている。この芸術祭は2007年に第3回目が予定されている。

【まちづくり住民活動】

中心市街地内の都市計画道路川治昭和町線の街路事業に際し、地元住民組織は街づくり基本計画に参加しよりよい街づくりに向けて積極的に取組んだ。また、当該道路の冬期間の交通障害解消を進めるため、公営住宅等関連事業の補助を受けるなど屋根雪処理の検討・改善を進めた結果、歩道融雪との相乗効果により快適な歩行者空間を造りあげた。さらに地区一体の自主的な花いっぱい運動により、美しい景観の形成を行うことにより、市街地のみならず他の都道府県からも住民活動や景観形成の視察に訪れる人も多い。このような活動が認められ平成14年には「まちづくり月間国土交通大臣表彰」を受賞している。

【スポーツ文化活動】

中心市街地に隣接した中条地区では、市営陸上競技場、野球場などのスポーツ施設を活用し、様々な競技やイベントが実施され交流人口の拡大や青少年の健全育成に役立っている。そして、平成16年の新潟県中越地震では、市街地に隣接する活動拠点ヘリポートとして利用された。また、地新潟県唯一の国宝である火焔型土器が出土した笹山遺跡では、地域の歴史と文化を地域づくりに活用する「じょうもん市」の活動が実施されている。

【本町分庁舎の整備】

平成18年10月には、中心市街地の本町3丁目(寺町通り線沿線)に空き店舗を活用し市役所機能の一部(産業振興課・観光交流課)を移転し市街地活性化の拠点とするとともに、住民票、パスポートの発効等市民サービスの向上を図っている。また、喫茶室を設け気軽に市民が交流できる場としても活用されている。

課題

①市街地内の賑わいの衰退

郊外型の大規模商業施設が進出することにより、徐々に中心市街地内での購買割合も低下し、それに伴い中心市街地内の賑わいが衰退している。交流人口・来街者の増加を図り、賑わいの再生を行う必要がある。

②中心市街地内人口の減少

車での移動を基本とした生活様式が進み、駐車場の確保が容易でゆとりのある住宅地の入手しやすい郊外など、中心市街地の外への転居が進んでいる。また、十日町駅の西側には未整備の画地に住宅地と農地が混在し、有効な土地利用が図られていないエリアが存在する。中心市街地の人口を増加させるためにも、これらの低・未利用地の有効活用が必要である。また、中心市街地内のコミュニティ醸成の場として、また降雪時の雪処理や災害時の避難場所としてのオープンスペースも必要である。特に新潟県中越地震では、道路上での避難生活を余儀なくされる住民がいるなど、オープンスペースが不足していた。地域防災計画では公園・広場は避難地、救援活動の重要な拠点として位置づけられており、環境保全・レクリエーション・防災の三つの観点から系統的に配置計画を定め、整備を推進する計画である。

中心市街地内では高齢化が進み老人世帯が多くなってきているが、冬期間の屋根の雪下ろしなどの心配が要らない高齢者用の集合住宅などが必要である。

③高齢者歩行者空間の確保

中心市街地内の幹線道路は比較的整備は進んでいるものの、一部においては狭隘で車のすれ違いに支障を生じ、歩行者が車両に脅かされている街路も残っている。高齢化時代に向かって歩行者の安全確保や降雪時や災害時の避難路としての整備をすすめる必要がある。また、来街者の回遊性を高めるためにも歩行者空間の確保が必要である。

④まち歩きの見直し

交流人口・来街者の増加を図るため、雪まつりや大地の芸術祭などの誘客を図るイベントが開催されているが、観光客に対して街が不案内であり、公共施設・観光施設などを案内サインが必要である。また、中心市街地の持つべき機能の一つである「まち歩き」を楽しめる仕掛けが少なく、中心市街地へ出かける機会が減り、また滞留時間も短くなってきている。まち歩きを楽しめるように街路・店頭などの演出や仕掛けづくりが必要である。

⑤スポーツ活動の振興

スポーツ交流やスポーツイベントは、スポーツレベルの向上と意識の高揚に大きな効果をもたらすほか、地域の活性化や青少年の健全育成に大きく寄与している。しかし、平成16年10月23日の中越地震によって多くのスポーツ施設が被害を受け災害復旧事業により復旧を実施した。特に、大きく被災した陸上競技場は、災害復旧事業のみでは5年に一度実施される第2種公認検定に合格できない状況にある。第2種公認の施設があることにより県内外の各種大会を誘致し交流人口の増大と青少年のスポーツへの関心を高揚させてきた本市にとって大きな問題となる。このため同競技場の改修が急務である。

⑥文化財の保護と活用

地域は固有の自然や歴史、文化と深い関わりを持っています。文化財を保護し継承していくためには、地域をより深く理解し愛着を深めて市民の郷土意識を育むだけでなく、来訪者に地域文化を紹介することも重要です。このため新潟県唯一の国宝火焔型土器群が出土した笹山遺跡の保護と活用を図り、地域活性化に生かすことが必要である。

将来ビジョン(中長期)

◎基本理念「暮らしやすい『街』・行ってみたい『街』」

○安心して暮らせる街 ○少子高齢化社会に対応した街 ○快適な生活空間の創出

中心市街地の機能の充実、そこに住む市民だけでなく、全ての市民が安心して暮らせるために必要である。効率優先の理論だけでなく、老人や子どもたちも含めたすべての市民が安心して利用でき、暮らせるような快適な生活空間である中心市街地を目指す。

○魅力あふれる街 ○活気とふれあいに満ちた街 ○中心市街地は市民共有の財産

中心市街地の活気はそこに住む市民だけではなく、市内外から人々が集まりふれあうことによって生み出される。このため人々を集める魅力ある中心市街地を目指す。また、中心市街地の求心力を高めることにより、市全体や周辺地域との連携を強め、ひいては地域全体の活性化を図っていくことをめざす。

○スポーツと文化を通じた新しい魅力の創造

中心市街地周辺のスポーツ施設を充実させ青少年の育成と郷土愛を醸成させるとともに、文化財を通じて郷土に誇りと愛着を持つ創造性豊かな人づくりを目指す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
中心市街地区域内人口減少率の抑制	%	基準年度および目標年度の過去10年間の区域内人口の年度毎減少率の平均値	都市基盤整備や公営住宅整備により快適な住環境をつくり、市街地内人口の減少を抑える。	-1.23%	H15	-0.8%	H21
お祭りの入り込み客数	人	基準年度および目標年度の過去5年間に中心市街地で開催された4大祭りへの入れ込み客の年平均人数	人を惹きつける魅力ある都市基盤整備や大地の芸術祭のような交流人口を増加させるイベントの開催により、来街者の増加による活性化を図る。	188,000人	H15	200,000人	H21
中心市街地買物利用割合	%	平成5年度より基準年度および目標年度までの地区利用割合の減少率の年平均値	魅力ある商店街や快適な都市基盤の創出により、中心市街地の求心力を高め、購買割合の減少幅を小さくする。	-3.09%	H13	-1.5%	H21
歩行者数	人	JR十日町駅周辺を通行する歩行者数	案内サインの設置により「まち歩き」を楽しめる仕掛けを行うとともに融雪施設整備により冬期間も快適に歩行できる空間を確保し、歩行者数を増やす。	634人	H16	680人	H21
陸上競技場利用者数	人	各種競技大会、市内中高校生等の施設年間利用者数	陸上競技場の改修によって第2種公認検定を継続し、各種大会を誘致しながらスポーツ関係来訪者の増加による活性化を図る。	27,861人	H15	30,000人	H21

# とおかまち地区(新潟県十日町市) 整備方針概要図

目標	誰もが安心して活動できるにぎわいあふれる都市ゾーン	代表的な指標	中心市街地区域内人口減少率 ( % )	-1.23 (H15年度) → -0.80 (H21年度)
			お祭りの入り込み客数 (人/年)	188,000 (H15年度) → 200,000 (H21年度)
			中心市街地買物利用割合減少率 ( % )	-3.09 (H15年度) → -1.50 (H21年度)

